

あいさつ

稲化会会長 関根吉郎

今年の4月で、化学科は創立10周年を迎える。設立までいろいろと難航したが、専任教員8名、1学年の学生数30名という、現在の早稲田大学の規模からみると、大洋の中の真珠の孤島の趣きのある学科が生まれた。

第1回の卒業生を世に送ったころは、丁度石油ショックと重なり、化学及び化学工業の前途に暗雲がたちこめているような感じもし

た。次第に世の中も教室の中も落ち着きを取り戻してきた。

稲化会は、化学科教室と卒業生と学生との三者の共同の場をもつために生れた。益々変化の激しくなる社会である。先輩諸氏は、後輩が進むべき途を誤らないような姿を示して頂ければ幸いである。

————— ◆ —————

研究室だより

■ 井口研究室

去る1月12日の事である。井口先生が、急に具合が悪くなられ救急車で入院される事態となった。皆も一時はどうなることかと心配したが、幸い軽症で即日退院、大事には至らず安心した。何はともあれ新年早々のハプニングであった。又、鈴木氏は長年の研究（エチレン分子間相互作用）が実り学位を授けられることになった。今後の一層の活躍が期待される。昨年、教員試験を落ちるべくして落ちた現在M2の小林氏は博士課程に進まれる予定で（実はM3.！）、ソリトンを研究しておられるが、最近通学途中で出会う、ミニスカートの女性の数を勘定しては何かの資料にしているようである。M1の林氏は井口研不世出の天才（パックマンの…）と云われ、乱れた糸（オツム…という噂があるが…）の相転移をやっている。この為か、最近胃腸が乱れぎみで机の上にはいつも正露丸が置いてある。来年度修士課程に進む間所、渡辺（この男、金曜日になると普通でなくなるプロレス

の大ファンです。）の両君をはじめ、成田、河中、神谷の4年生諸君は、誰が足を引っぱるのか、今だにポリアセチレンのバンド計算、電子の局在等の卒論に奮戦中である。異大なる研究業績を残されたM2の岡本（恒常性腹下し。この点に関してはM1の誰かと双壁をなす。しかし近年、合併症を併発し頭髮が著しく禿化しつつある。）、今井（昨年渡米し、持って来てはいけぬ物を持って来た。）の両氏はそれぞれ、CBS ソニーと例の日立に就職される。各方面での御活躍を期待する次第である。

当研究室にも、3月から期待の新4年生が6名入所する予定で、ますます多士済済？の顔ぶれで活況を呈すると思われます。卒業生の皆様には、化学科へ御立寄りの折は是非とも手みやげ持参の上、井口研へ御来し戴きたく一同、胃袋から×××、心から、御待ち申し上げております。

（筆跡ノビタ、文責岡本）

■ 伊藤（紘）研究室

伊藤紘一研・ギネスブック（1983年2月現在）
創立…1976年4月、ボス…伊藤紘一教授・
理学博士（東京大学）、専門分野…構造化学

(分子分光學), 巣立った学生…22人 (D.C. 1人, M.C. 6人, 学部卒15人), 最も人数の少ない時期 51~53年度の4人, 最も人数の多い時期 57年度の9人, 大学院進学率 23人中13人 57% (他大学院を含む)。

主な装置 レーザーラマン分光器1台, Ar⁺レーザー2台, 色素レーザー1台, 赤外分光器1台, 紫外可視分光光度計1台, 反射スペクトル測定装置1式, 真空蒸着装置1台, 超遠心分離器1台, 電気化学測定装置他多数。

伊藤研にある一番やばいもの シアン化カリウム100g (約670人分の致死量)。

O型集団の伊藤研 (もちろんボスもO型) 55年度8人中4人(50%), 56年度7人中5人(71%), 57年度9人中8人(89%), O型のボスにO型の学生が集まるのか? ちなみにO型は日本人の約3割。

伊藤研のユニークな人たち
○先生に向って要するにやる気がないんですと平気で言えた人 (1期) ○先生に向って早稲田祭でも実験するんですかと驚かせてみた子 (6期) ○卒業アルバムの写真撮影の際先生がいるのによく先生とまちがわれた男 (2期) ○赤外用のNaCl窓板を水で洗った人 (4期) ○ドアがロックしてあるのを知らずに開けようとしてノブを壊した子(6期) ○170番 (中華料理屋) へ出前を注文するよう頼んだら内線で170番にかけた人 (4期) ○パブレストランでレディースコーナーに案内された男 (6期) ○学短の守衛に呼びとめられた女子学生 (6期) ○日活の3本立て映画を観ている時にやたらと質問する人 (7期) ○夏の暑い日には机に文献の同じページをひろげ一日中じっとしていた人 (6期)……。(板橋昌夫)

■ 伊藤 (礼) 研究室

日夜, 資源工学からの圧迫に耐え, 頑なに51号館の我が化学科の領地を守り続けている博愛主義集団, それが私たちの研究室です。離れ小島ゆえ, その必然として内地の情勢には疎く, ひたすら井口研諸氏のもたらす“内地の噂”にたよっているしだい……。

さて, まずここで, 長年お世話になった“さがみっばら”の振太郎こと矢野氏の新しい旅

立ちに際し, 今後の中外での活躍を期待致したいと思います。

次に, この研究室に本年度久方ぶりでGALが入団することになりましたので, それに関連した話を少々……。実は拙者が入団した4年前までは, 女性が入団するのがいわば伝統になっていたのですが, 3年前金太君の入団と共にどういうわけか女性とは無縁の研究室になってしまっていたのです。それが, 今年金太君は目出たく昭和電工に雇用が許可され, それと入れ替わってGAL入団! というわけで一同金太君に感謝しているわけです。このGALの高校の先輩にあたるという, 我がM2になった“モシニ君”というのがこれまたいたって正常な人間で参ります。というのも, 彼は聖子ちゃんの熱狂的ファンで「特にあのO脚がたまらない!」とっては目をランランと輝かせます。彼がウォークマンで聖子ちゃんを聴く姿は壮絶です!! M1には神出鬼没・博学のAS-MANと自らをE.T.と名乗るイワキューがいます。おや, 雑談が過ぎましたかな?

信じ難いほどの若々しきで我々を圧倒する礼吉先生と, 助手の森氏を中心とした徹夜ゼミゲリラ, それに新4年生……長老(?) 斉藤氏を含め総勢10人を優に越すマンモス研究室……。まあ, これが今の実態でしょうか。

最後に, 本稿で若干いじめすぎたかわいい後輩に心から陳謝!

文責・笹金光徳(D2)

■ 関根研究室

我が関根研は, 昨年3年ぶりにバイカル号で香港ツアーに先生を頭に6人が参加しました。先生と助手のN氏を除く4人は初めての海外旅行でありました。香港では本場の麻雀を見てその‘パイ’の大きさに驚ろかさされ, またその道35年というポン引きのおじさんの日本語の堪能さにまたまた驚ろき, そしてロシア人のケタはずれた体力に圧倒され, 世界は広いな大きいなと感心いたしました。先日(2/1)はNHKの‘You’という番組が先生を取材に来て, 先生の裸や, 研究室での酒宴を撮影して行きました。その番組のタイトルは‘我がキャンパスの人気教授’だったそうです。

こんなことばかり書くといいたい関根研は何をやっているのだと思われるでしょうがそう思われてもいたしかたのないことです。

しかし、そういった環境の中をかいくぐるように日々実験に取り組んでいる真摯な人も多々いるのです。

最後に関根研屈指のOBである某氏の近況報告でしめくくらせていただきます。

『私はティパーディングヒのゴルフコンペで勝をおさめました。仕事は上々です。と言うのも私はちょっとした象使いの親方です。象の召使いみたいな虫のです。こうなることが私の昔からの希望でした。おい兄さんお買得の象を世話するぜ、とても清潔なんだ。ペニシリンを注射してあるんだぜ。最高だぞ。』
N.K.

■ 高橋研究室

昨年3月に高橋先生が西ドイツより戻られ、心機一転の出発からはや1年が過ぎた。昨年度の成果としては、赤外ラマン分光法による従来のホトクロミズムの構造研究をはじめとして、フィトクロムに関する一連のモデル化合物の構造研究、さらに最近ではパルスレーザーを用いた時間分解ラマン、CARS分光法による励起分子のラマン測定を行なった。学会発表としては、昨秋の構造討論会にて「スピロピランのホトクロミズム研究」(山田他)、「ビリベルジンジメチルエステル共鳴ラマンスペクトル」(黒柳他)、今春の年会にて「マルチプレックスCARS分光法によるローダミン6Gの構造研究」(松原他)、「ホルマザンのホトクロミズム研究」(杉原他)の各発表を行なった。また昨夏にはフランスにてRaman Conferenceが開かれ、金子さんと五十嵐さんがそれぞれ発表を行なった。(なおR.C.は来年夏には東京で開催される。)さて、今春修士2名、学部生4名を当研究室から社会や大学院へと送り出した。この1年は近年まれにみるにぎやかな研究室だった。常にその中心だったのは、“カメ”と称するN君であった。このN君は研究室にいろいろな事件をひき起こした。器物破損MVPをはじめ、5割増しのしゃべりによる高橋先生との江戸っ子対談、さらに研究室外でも歯医者や車運転中での思いがけないアクシデント(?)など話題は尽き

ない。その彼が今春就職してしまうのはまことに残念なことである。(できればもう1年いてもらおうか?の声も多かった!)まあ冗談はさておいて、今年度は修士3名と新しく学部生4名を迎えて新たな出発となった。時間分解パルスレーザーによる構造解析を中心テーマとして、全員が一丸となって研究にとり組もうと意気盛んである。そして、先生はいうまでもなく、助手の金子さん、五十嵐さんの多大なる助言は欠くべからざる存在である。

みなさんどうかよろしく!

(文責 H.U.)

■ 高宮研究室

今年度、高宮研究室は卒研究生5名を新たに加え、修士5名と合わせて総勢10名とかつてない大世帯となり大いににぎわって(混みあって)おります。高宮先生の御苦労もしのばれようというもの。触媒反応をテーマにし、従来の気相反応に加え液相反応を新しくてがけ、5つのチームを組んで各々の研究に励んでいます。各チームの研究テーマは、poly-M-PC上のベンジルアルコールの酸化脱水素反応、 Al_2O_3 上のイソボルネオールの脱水反応、 MgO 、 CaO 上のフェネチルアルコールの脱水、脱水素反応、 TiO_2 上のアルデヒドの縮合反応、また液相反応としては、ハロゲン化銅を用いた芳香族アミンの合成です。

課外活動としては、去る6月に、恒例の追分セミナーハウスへのゼミ合宿が行なわれ、広々とした自然の下、運動に酒宴に、一同大いに氣勢をあげてきました。ところで今年の新人は大変元気がよく、研究室内には笑いのうずが絶えません。研究に熱心なあまり、多くの備品を破壊したのものもあるぐらいです。もっとも当人は責任を感じたらしく、すぐに修理をしましたがけれども。実験終了をまちかねたように始まるトランプは、もはや当研究室の名物と言ってもよいでしょう。また外部からのお客様も多く、早く実験を終わらせたくて、つつい皆朝早く来るようになり、早起き合戦が始まる始末です(トップに来る人間は、だいたい決まっていますけれども)。このように、充実した研究生生活を送っています。研究も遊びも明るく楽しく元気がよく、これが高宮研のモットーです。最後になりました

たが、卒業なさいました先輩諸氏も機会がありましたら是非御来室下さい。

(M1 相川)

■ 多田研究室

今年度も多田研は少数精鋭で頑張っています。D3岡部は4月からコロンビア大学で博士研究員として働くことになりました。博士論文を書きあげた昨年末から、最後の学生生活を下級生に“ちょっかい”を出すことに捧げています。M2井上は人気の協和発酵に就職しますが、相変わらず単車を乗りまわしております。M1百瀬は稲化会等の雑用を引き受けて、実験をするひまがありません。B4の大江、菅原、都築、橋本は努力しても結果の出ない有機の恐ろしさを実感しつつ、卒業はできるようです。

研究テーマは次の二つに分けられます。一つは補酵素B₁₂転位反応のモデル化に関するものでD3岡部、M2井上、B4菅原、橋本がこれにあたり、もう一つはピラジン環を有するクラウン性化合物の光反応等に関するものでM1百瀬、B4大江、都築が研究しております。

さて、当研究室の名物と云えば、やはりレギュラーコーヒーです。4年生はおいしいコーヒーを入れられる様になるまできたえあげられ、他の研究室からも実験に疲れた者たちがささやかな休憩に訪ずれるのであります。

また、雑事のことで信頼が厚く、野球大会の幹事研(前大会の最下位がこれにあたる)を連続してまかされております。恒例の山行では、後立山連峰縦走を目指しましたが、台風10号が頭上を通過したため、天狗山荘付近で3日足止めをくい、八方尾根から下山しました。

来年度はDCがいなくなり、研究活動の面で先生の負担が増すことが考えられます。研究室が“冬の時代”に入らないように努力することを誓って近況報告を終ります。

(M1 百瀬)

■ 新田研究室

仮空座談会「新田研を語る」

司会：今日は新田研の現状についてお話ししていただきます。

植竹：我々の研究室では1、3、5のような高歪み化合物の光反応及び熱反応について検討しております。(とポスターを指さす。)

ケンちゃん：私の苗字は井と書いて「イ」と読みます。秋の年会では座長が考えたあげく「井昭宏」を見て「イアキさん」と呼びました。(笑い)

一郎：新田研にはいって、初めて野球大会で優勝しました。野球をやめなくてよかった。

寺田：本当は私がこの作文をする予定だったのですが。(ためいき)

岡田：はっきり言って異常だと思います。ちなみに先生のお天気表を考えたのは私です。

司会：最近のお天気はどうか。

植竹：1月中は2日間曇りがありましたが、あとは晴れと快晴です。

小林：最近ラグビーをやるようになり、相撲部屋から足を洗おうと思っています。

先生：おとといはカツ丼を2つもたのんでしまいました。1つは小林君たちに食べられてしまいましたかね。(笑い)

司会：コーヒーが飲みたくなりましたね。

一郎：よし、じゃんけんしよう。

(当研究室では「エキサイティングじゃんけん」と称して、じゃんけんで負けた人が全員のコーヒーをいれるしきりになっている。)

K：よしやろう。(Kとは応化のS研所属であるが、隠れ新田研と言われている。)

(じゃんけんで寺田が負ける。)

寺田：あー、まただ。(高いトーンで)

司会：コーヒーがはいるところで、この座談会も終わりにさせていただきます。

寺田：ポットの電源が切れてるよ。

全員：ガクッ。

注) この内容は一部フィクションです。メ切日に書くとこんな風になるんですね。

＝ 新博士紹介 ＝

平 野 秀 樹

官能基を有するクラウンエーテル類
およびそのモデル化合物としてのジメト
キシフェニルピラジン誘導体の反応性。

私の学生時代

書きたいことが山ほどあり、原稿の依頼を受けて大いに喜んでいました。今年は化学科創設十周年で、記念パーティーも行なわれるそうですので、ここでは私が学生時代の頃の感想を気楽に綴りたいと思います。

同期の仲間で、我々が一期生であることを入学前に知っていた人は、ほとんどいなかったでしょう。それを知らされても特別な気負いはありませんでした。それでも時がたつにつれて、我々には大きなハンディがあることを感じました。他学科では各々の伝統があり、独自のカラーがあります。多くの場合、その伝統に浸り、カラーに染まることによって、自分の学科内での存在感を味わうことができます。それが無い事を非常に寂しく思いました。そういうものは、酒を飲みながら、人生を語り合い、馬鹿騒ぎをし、種々の議論を交しながら生まれ継がれていくものだと思います。学科内に共に酒を飲み交す先輩がいなかったことが残念でした。

学年が上がるにつれて利点も数多く生まれてきました。先輩がいないために、自ずと直接先生に接触する機会が増え、学生先輩から得られない多くの情報を得ることができました。先生を連れ出して遊びに出る事も何度かありました。又、化学科は少人数であるために大学院生から一年生まで、縦の結束が強く、野球大会、スキー大会、卒論発表会など、学科全体として、動きがとりやすいという利点もありました。

一期生をはじめとして化学科の諸先輩は、彼等なりに化学科独自の、カラーを生み出すことに努力してきました。もちろん伝統などと呼べる大層なものではありませんが、今日の形を形成しています。でもその形は完全なものではないはずで、学生諸君、君達が、今の形をいいかげんに利用し、あるいは無分別に受け入れることなく、よりよいものに育て上げる事を期待します。

56, 57年度に早稲田大学から博士号を受けた6氏に感想文を頂きました。この他一期生の芦川育夫(現在理化学研究所)、中野隆氏(現在東大物性研)の両氏が東大から、また浜登希子氏(現在秋田大医学部)が東工大からそれぞれ博士号を受けております。

五十嵐 孝 司

共鳴ラマン分光法によるホルマザン
および関連物質のホトクロミズムに関する研究

私が卒論研究で高橋研に配属となった時、それは丁度、化学科の一期生が入学した年でした。早いもので、それから満十年が経ちました。卒論配属当初は応化の先輩と一緒にいました。修士課程二年の三月にはじめて化学科の一期生が研究室に顔を見せました。それから毎年化学科の学生と一緒に研究を続けました。51号館の11階に研究室があった頃は、狭くて四年生用の机を設けられない程でした。また人数の多い割には実験装置が少なく、徹夜のやむなきに至ることもしばしばでした。特に学年末ともなれば、誰かが徹夜をするといった状況です。(これは現在でも続いています。)共に苦労して実験した後輩諸氏が元気な顔で尋ねて来る時、何とも言いようのない嬉しさを感じます。私は昨年二月に博士の学位を取得しました。高橋先生はじめ化学科の諸先生方、後輩諸氏には大変お世話になりました。改めて感謝の意を表します。現在も理工研の奨励研究生として、高橋研にお世話になって居ります。皆様には今後とも宜しくお願い申し上げます。

板 橋 昌 夫

Raman Scattering Study on Model Systems: Analysis of Electrochemical Processes of Porphyrins Adsorbed on Electrode Surfaces

化学科創立10周年おめでとうございます。僕は2期生ですから、これで9年間化学科に在籍したことになり、今までの人生のちょうど半分に当たるなど考えると、その年月の長さを改めて感じてしまいます。今回、このような長たらしい題目で学位を取得したわけですが、この機会にこれからドクターコースに進もうと考えている人にとって必要と思われる（僕の独断と偏見による）三つの条件を述べたいと思います。(1)出世しようとか、経済的に成功しようという夢を持たないこと。ドクターの就職は、その専門に限られたものになりがちで、特に理論系ではきびしいようです。学位取得後、すぐにアカデミックポストを得ることは、現在ではあまり期待できません。(2)英語力を養うこと。これは特に論文を書く際に要求され、相当なデータを持っていても、その英語がまずいために読む人に誤解を生じたり、雑誌に掲載されないケースがあるのです。そして最後に、(3)しっかり彼女（できればタイプの上質な子）を見つけておくこと。博士課程をおえると、少なくとも27才にはなっており、女の子にとって完全にオジンの部類に入ります。

勝手なことを書きましたが、僕にとってこの3年間は、良き先生良き友人たちに恵まれて、とても楽しいものでした。

岡 部 正 美

コバロキシムに関する研究

(補酵素 B₁₂ 転位反応のモデル化)
及び有機合成への応用)

早いもので、早稲田大学に入学して9年が過ぎました。多くの先生方や先輩、後輩の皆様の御蔭で今春博士号を取得することが出来

ました。ここで新しい門出を迎えるにあたり感謝の念にたえません。

新しい門出といっても、これからずっと一箇所で研究に従事するわけではなく、しばらくはジブシーの如くに渡り歩くことになりそうです。4月からは、まず一年間ニューヨークはマンハッタンに出稼ぎに行ってきます。おそらくは、かのハーレムのそばに住むことになると思いますが、それでもかまわないという方は遊びに来て下さい。強盗に出くわしても責任は取りかねますが……。

学生幹事の方々の御蔭で2月11日には盛大なる化学科10周年記念パーティーが行なわれましたが、あのような会がこれからも行なわれることを期待しております。

では、そのときにでもまた会いましょう。

鈴 木 一 成

エチレン分子間相互作用ポテンシャルの研究

このたび、早稲田大学から工学博士を授与され、身に余る光栄と感謝致しております。これも井口馨教授、宮崎智雄教授、伊藤礼吉教授の御指導の賜と心から御礼申し上げます。

本研究は、中程度の大きさの系であるエチレンダイマーの分子間相互作用ポテンシャルを交換摂動論を用いて計算し、種々の配置のエチレンダイマーが安定に存在するかどうかを、半経験的および非経験的方法により考察したものです。この研究により、基底状態分子間の相互作用計算が一段落したので、今後は励起状態分子間の相互作用ポテンシャルを計算することに取り組んでいきたいと考えております。

学位取得を一つの節目として、より一層の努力を積み重ねていきたいと思っております。

今後とも諸先生方、諸先輩方の御教示、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

長 瀬 裕

Studies on Block and Graft Copolymer Containing Silphenylenesiloxane in the Main Chain

今春、私は早稲田大学化学科に入学して10年目を迎えます。ここに念願の博士号を授与され、喜びにたえません。ふり返ってみますと長いようで短かった10年間であり、同好会活動に明け暮れ試験前にあわてて勉強した学部時代がたいへん懐しく思い出されます。とにかく、“よく遊びよく学び”に徹した学生生活でした。学部4年となり関根研に配属されたわけですが、自由奔放な雰囲気の中でマイペースで実験その他に没頭してきました。また、その間休み期間をフルに利用して関根

教室の動き：最近2年間の化学科の動きとしては、56年4月に新田先生が教授に昇格しました。また高橋先生が二年間の理工学部教務主任を終え、56年4月より1年間在外研究員としてドイツに渡り、ラマン分光に関する研究を終えて57年3月に帰国しました。その間学科主任も57年9月には多田から井口先生に移り、同時期に伊藤紘一先生が理工学部教務副主任として学部長室に入り、教育、研究、学部事務の激務を持ち前の体力でこなしています。57年4月に第一期生の長瀬君が助手に就任しましたが、研究を認められて相模中央化学研究所にスカウトされ4月から大学を離れます。また同時にもう一人の金子君も退任しますが、4月から第一期生の森君が助手に就任の予定です。また化学科創立以来事務所の主でお馴染みの坂上さんが56年12月より応用化学科の事務所に移り、部屋は同じですが入り口のドアが変りました。後任には青木さんが着任して化学科の仕事をしていています。

57年度新入生から理工学部では一般高校からの推薦入学制度を導入し、化学科には57年度に3名が入り、58年度生にも3名が内定しております。大学受験事情も激動しているのか、56年度入学生は化学科始まって以来の54

研恒例の香港への船の旅へ4度も参加し、アメリカへも何度か足を運ぶことができたことが自分自身の幅を広げる上で大いに役立ったと思います。実験に旅行に忙しく、まったくロスタイムのない大学院生活でした。

博士課程に入ってから、含ケイ素高分子の特異な性質に興味をもちその固体物性を中心に調べてきたわけですが、またそれを応用面に生かし切れなかったという点で心残りもあります。しかし、幸運にも現在までの仕事を生かせる職場に採用されることに決まり、新たなスタートを切るつもりで努力を惜しまぬ所存です。やる気充分で張切っています。

長い間私をいろいろな面で支え、見守って下さった関根先生はじめ化学科の先生方ならびに諸先輩に深く感謝の意を表しますとともに、10周年を迎えた化学科の今後の発展を心よりお祈り申し上げます。

名を数え（現在は50名弱）、セーブした57年度は前記の推薦3人を合せても17名と大きく振れ動いております。

今年度も学生の就職事情は良く、かなりゼいたく選挙が出来たようです。好事情の持続を望むばかりです。

(多田記)

■ 卒業生短信

芦川育夫：ポストドクター生活はつかれます。梅山正登：組合の執行部として活動しています。菊池満：入社以来ずっと同じ職場で何の変化もありません。十河承二：仕事の方も、それなりに面白くなってきました。早稲田に遊びに行く機会がありません。中谷肇：十二月二十九日に男子誕生しました。平野秀樹：住みごち最高、是非遊びに来て下さい。(代筆) 恵子 三輪光太郎：忙しくて死にそうです。横田昌明：小生も大学生活十周年を迎えました。ひきつった顔で教科書をめくっています。李成元：昨年の夏、結婚しました。当分生活の面倒を見てもらうつもりです。

笠原一郎：在学時代と何ら変わるところなし、ととも十年経ったとは思えません。小泉健：スチレンモノマー製造プラントに勤務しています。坂本典正、最恵子(旧姓、池田)

最近は二人共、育児に忙がしく子供を育てるのは実に大変な事だと思っている今日このごろです。先山厚子(旧姓、池島)：七月長女が誕生し、今年3月まで育児休業をとって育児に専念しています。鈴木篤：4月24日に京都で結婚式を挙げます。浜中晃：入社して5年、職場も変わらず元気にやっています。本橋真由美(旧姓、浜野)：結婚を機に筑波に移り、平和な毎日をすごしています。楽しみは車で、時々反対車線に入り肝をつぶします。口では言えない程の刺激です。山田均：特記事項いまだになし。池山永津子(旧姓、小宮)：昨年の10月に結婚し、現在は主婦業を一生懸命やっています。桂滋男：以前と全く変わりありません。鎌田敦之：6月に藤沢に引越しました。車谷勝行：記憶力に不安を感じながら構造式を覚えたりラテン語を丸暗記の毎日です。土倉明：ゴルフに勝ち、仕事も上々です。中山匡：校内暴力の犠牲にもならず、かわいくてやさしい女子生徒に囲まれて幸せな毎日です。森田英裕：昨年8月から甲府工場に長期出張中です。そろそろ東京に帰れるだろうと期待しているところです。相間靖三：歯科材料の開発研究を行なっています。近頃、やっと慣れてきました。阿部真好：しつこく要求したおかげで、来期はNMRを買ってもらえ

そうです。石井聡：真面目な社会人一年生。仕事ひとすじの毎日です。大澤力：博士後期課程一年に在学中です。落合久美：総合研究所金属セラミック材料研究所に勤務しています。加藤久幸：半導体は化学の割り込む余地も十分にあり、大学で勉強したことが大いに役立っています。神田東作：もうしばらく応微研にすることにしました。中村隆司：どうやら仕事に慣れてきました。浜崎博英：厳冬の石油業界の中で、日夜かすかな光明を求めてがんばっています。課対抗駅伝大会に備えて、ランニングをしています。荒川靖：修論発表で忙しくしています。西郷富治：花の女子校で数学を教えます。専門外の教科に戸惑いながらも生きがいなど感じつつある毎日です。須藤芳明：仕事は忙しく雑事におわれています。休日はゴルフとテニスにこっています。井上健夫：飲み屋に行くとか焼酎を一升瓶のままキープします。早大生にもお勧め。(福岡) 久留田哲夫：半年の研修を終え、中央研究所勤務となりました。平山節子：目新しい事ばかりです。実験室がなつかしくなりました。見沢朗：責任ある仕事をまかされ、少々まっています。休日毎にスキーに出かけてます。

☆ ☆ ☆

会計報告 1983. 2 .23 現在

56年繰越金	550,753
■収入の部	
会費	12,000
利息	17,159
計	29,159
■支出の部	
稲化会報	37,250
十周年パーティ補助	220,800
計	258,050
■残金	321,862
	(単位・円)

■ 編集後記

どうか年度内に発行することが出来ました。創刊号から1年9ヶ月を経てしまい、卒業生の方々のお叱りの声が聞こえてきます。

十周年記念パーティを機に稲化会の活性化をめざし、年一回の稲化会報及び2～3年に一回の稲化会名簿の発行に努力したいと思います。(この様に書くと数年後の学生幹事は苦勞するだろうなあ)最後に一言「稲化会費(正会員 1,500円、学生会員 750円)を払いましょう」

(百瀬)

● お 願 い ●

OBの方々の消息等のご連絡をお願いいたします。〒160 新宿区大久保3-4-1

早大理工 化学科連絡事務室気付